

岐阜市庁舎のあり方検討委員会 先進都市視察報告

1 日程

平成 26 年 5 月 28 日（水）午前 10 時～11 時 30 分

2 視察地

一宮市役所（一宮市本町 2 丁目 5 番 6 号）

3 出席者

杉戸真太委員長、海道清信副委員長、多田喜代則委員、松井逸朗委員、岩間尚子委員、金森喜久雄委員、棚橋敏彦委員、梅田榮二委員

4 視察趣旨

先進都市の事例の視察を通じて見聞を広め、新庁舎の機能、規模及び建設候補地に関する検討の参考とするため

5 一宮市庁舎概要

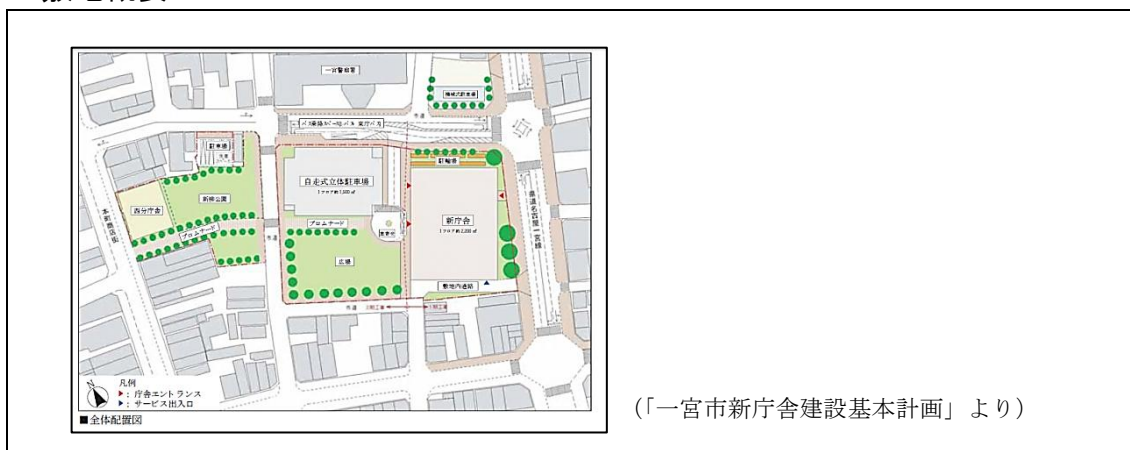


（「一宮市 新庁舎のご案内」より）

建築面積	2,300.42 m ² （建ぺい率 28.64%）	
延床面積	31,139.78 m ² （容積率 387.71%）	
規模	地上 15 階、地下 1 階、塔屋 1 階	
最高高さ	66.10m	
構造形式	基礎免震構造	
構造種別	基礎：鉄筋コンクリート造 柱・梁：鉄骨造、コンクリート充填鋼管造、SRC 造、RC 造 耐震壁：鉄筋コンクリート造（地下 1 階のみ） 床板：鉄筋コンクリート造、捨型枠用デッキプレート床	
駐車場	機械式立体駐車場： 102 台	自走式立体駐車場： 255 台
		計 357 台

	臨時駐車場（イベント広場・新柳公園南）： 14台+3台 バス駐車場（新柳公園北）： 4台
駐輪場 バイク置場	駐輪場： 264台 バイク置場： 16台

6 敷地概要



所在地	一宮市本町2丁目5番6号
用途地域	商業地域
区域指定	市街化区域
防火指定	防火地域
建ぺい率	100% (80%+20%)
容積率	400%
敷地面積	約0.8ha (8,031.79㎡)

7 建設経過概要

平成 19年 8月	新庁舎建設等基本構想策定委員会を設置
平成 20年 2月	新庁舎建設等基本構想答申
平成 20年 8月	新庁舎建設検討委員会を設置 新庁舎建設検討委員会専門部会を設立
平成 21年 2月	新庁舎建設基本計画（案）に対するパブリックコメントを実施
平成 21年 4月	新庁舎建設基本計画答申
平成 21年 7月	新庁舎建設基本設計完了
平成 21年 11月	新庁舎建設実施設計委託契約締結
平成 23年 2月	新庁舎建設実施設計完了
平成 23年 10月	新庁舎（第1期）建設工事請負契約締結 新庁舎建設工事着工
平成 26年 3月	新庁舎完成
平成 26年 5月	新庁舎業務開始



(「一宮市 新庁舎のご案内」より)

8 視察概要

- (1) 一宮市総務部管財課長あいさつ
- (2) 岐阜市行政部長あいさつ
- (3) 説明（一宮市総務部管財課長）



①事業概要

○第1期工事（H23～H27）

内 容：新庁舎建設、旧庁舎解体、外構整備

事業費：約 104 億円（財源のうち合併特例債 約 71 億 6,800 万円）

○第2期工事（H25～H27.12）

内 容：自走式立体駐車場建設、新柳公園整備、西分庁舎改修

- ・ 旧庁舎の解体を5月22日から開始
- ・ 旧庁舎解体後、自走式立体駐車場を整備
- ・ 平成27年8月以降に、西分庁舎及び新柳公園を整備予定

②新庁舎の主な特長等

- ・ 南海トラフ巨大地震に耐える耐震性を確保する免震装置を設置
- ・ 利便性を考慮し、1階から3階の低層階に窓口関係の部門を集中的に配置。吹き抜けを用いて一体的な空間を形成
- ・ 利用者が迷わないようなフロア配置
- ・ 環境配慮として、全面カーテンウォール、窓ガラスに Low-E 複層ガラスを採用して建物内の熱負荷を軽減。また、窓側に外気取り入れユニットを設けるなど冷暖房の節約を図っている。

③旧庁舎の課題

○老朽化

- ・ 旧庁舎は、昭和5年に建築され、昭和35年と昭和46年の2回にわたって増築。編入前から老朽化による建替えが課題となっていた。

○分散

- ・ 平成17年4月、旧尾西市、旧葉栗郡木曾川町を編入。3庁舎による分庁方式で運用
- ・ 庁舎間移動の利便性やコストなどが課題とされた。



平成18年12月、市長選において現市長がマニフェストで新庁舎検討機関の設置と基金の積み立てを表明して当選。（それ以降は、7 建設経過概要のとおり）

(4) 庁舎視察



↑ 低層階に集約された窓口
←吹抜けを用いて、一体的な空間を形成

主な手続きを1階で完了できる総合窓口



受付番号と窓口番号を画面に表示して利用者を案内する表示板



1階中央のロビーに設けられ、各窓口へ容易にアクセスできる待合スペース



相談者のプライバシーに配慮した相談室



2階子育て支援課周辺に設置されたキッズコーナー



各階に設置されている、ベビーチェアやベビーベッド、オストメイト配慮設備等が備った多目的トイレ



ベビーカーや車いすの方も通りやすい広々とした通路



間仕切りがなく、キャビネット等の高さを抑えた見通しのよい執務室



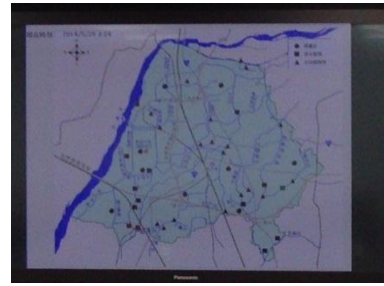
各階に設けられた打合せ等に便利なミーティングスペース



災害対策本部が設置され、災害対応の司令塔となる防災会議室



防災・災害対応に関する様々な情報が表示可能なモニター類



モニターで市内の河川水位や降雨の状況等をリアルタイムで把握が可能



←ICカードや暗証番号といったセキュリティ対策が講じられ、関係者以外の入室を制限できる書庫

大量の公文書を部署ごとに整然と保管することが可能な書庫→



(5) 質疑応答

問：災害対応のための食糧や水を庁舎で備蓄していますか。

答：現在はしておりませんが、今年度中に1万5千食の食糧と水を備蓄する予定です。主に職員用となります。

問：庁舎の非常用電源は何日くらい保ちますか。

答：3日間、72時間となっています。

問：非常用電源は、庁舎全体が3日間使えるものですか。

答：使える部分と使えない部分を分けています。防災会議室やサーバー室などはすべての機器が継続して使えますが、その他の課等では1台使えるようにするなどの形で対応しています。

問：災害時のトイレはどうなりますか。

答：下水は、庁舎の近くの部分で一定程度溜めていくことができる構造になっています。

問：1カ月間運用して、市民の方や職員の評判はいかがでしょうか。

答：市民の方は、良好な意見が大多数ですが、駐車場の不足については、厳しいご指摘をいただいております。駐車場の不足には、見学や食堂の利用などによって従来よりも滞在時間が長くなっていることも

影響しているのではないかと考えています。

職員につきましては、空調など各種の設備・機器の取扱いに関する問い合わせが多く寄せられていますが、使い勝手に対する不満等はございません。

問：商店街の活性化と西分庁舎を含めた市役所の繋がりや方針は、どのようなになっていますか。

答：西分庁舎は大正13年に建築された建物であるため、保存の要望がありました。そこで、公募市民によるワークショップで活用方法を検討した結果、商店街に来た方が気軽に立ち寄れるなど、市民活動の拠点となるような施設として活用する内容にまとめ、改修を行うことになりました。

行政機能を主にした新庁舎と、市民活動の拠点となる西分庁舎を同じ区域内に整備し、市民の方も職員も自由に行き来ができるという活用の仕方を考えております。

問：新庁舎は、旧庁舎の横に建設されましたが、検討の際は他にも候補地があったのでしょうか。

答：旧尾西市役所、旧木曾川町役場はそれぞれ1万㎡を超える土地がありますが、基本構想策定時に、建ぺい率や容積率等の諸条件を精査したところ、想定していた3万㎡を超える建物は建てられないということでした。

現在1,200人の職員がこの庁舎に通っておりますが、中心市街地のにぎわい創出に繋がるということで、現在の庁舎の近くに建設するのがよいということになり、市域の中で考えても、現在地はほぼ中心にあり、交通利便性も良く市民の皆様が集まりやすい場所であり、隣の駐車場や公園を利用して旧庁舎を解体しつつ一体利用をしていけば十分に面積は確保できるということで最終的に決定いたしました。

(6) 岐阜市庁舎のあり方検討委員会委員長あいさつ